AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

看護研究集録 (2013.12) 平成24年度:86.

救急外来における院内トリアージの質の検証

岡本真紀代 三輪直子 伊藤尋美 柴山かおる 鈴木昭広 藤田智

救急外来における院内トリアージの質の検証

旭川医科大学病院　救命救急センター
岡本真紀代　三輪直子　伊藤尋美　柴山かおる　鈴木昭広　藤田智

【はじめに】
2010 年 10 月から救命救急センター外来では、救急外来での経験年数が浅いスタッフが半数以上いる中、独自のトリアージ評価表を用いて院内トリアージに取り組んできた。トリアージの実施率は 9 割以上と高値であったが、看護記録上再トリアージを実施している記載が少ない印象があった。そこで、過去の看護記録から再トリアージの実施率と再トリアージがされていない時の状況を振り返ることで、トリアージの問題点を明らかにしたいと考えた。

【目的】
看護師による院内トリアージの質を再トリアージ率から評価する。

【方法】
2011 年 4 月から 2012 年 3 月までの救急外来看護記録より、トリアージ後の患者再評価に関する記載の有無と実施状況を抽出する。倫理的配慮として、対象を特定する記述を削除し得られたデータはコード化し使用する。また、本研究は倫理委員会の承認を得た。

【結果】
昨年度トリアージが行われた患者数は 4013 名で実施率は変わらず 9 割以上であったが、再トリアージの記載があったのは 16 件であった。そのうち再トリアージが必要な症例 33 件中、実際に再トリアージが行われたのは 4 件であった。再トリアージが行われなかった 29 件の理由として、複数の患者や処置の対応中と思われるものが多かった。再トリアージの実施率が低くても待ち時間中の急変は無かった。

【考察】
待ち時間中の急変を回避するためには、繰り返しのトリアージが必要とされているが、今回の結果からは再トリアージへの意識が低いことが考えられた。忙しい中でも患者の待ち姿を確認し外観から再評価することは可能であり、必要なことである。再トリアージを適切に行うことは、患者・医療者双方にとってより安全で安心できる待ち時間の提供を図ることに繋がる。今後トリアージの取り組みが徹底されるように、学習会等での知識の習得や再トリアージ欄を設ける等の看護記録用紙の検討など検討していきたい。